雪国植物園

雪国植物園には、長岡市の多雪地帯の里山エリアに自生する植物が 850 種以上あります。里山とは、人々が習慣的に農耕、木の実や山菜などの採集、薪集めを行った山麓の地帯です。天然資源の使用は、地元の生態系の保護に役立つ持続可能な方法で慎重に管理されてきました。技術の進歩と農村地域の人口過疎化に伴い、里山は人々の日常生活の一部ではなくなりました。放置しておくと、これらの繊細な生態系は過剰に生い茂りすぎ、外来種によっても被害を受け、その生物多様性が脅かされています。雪国植物園は、高山植物や海岸植物、外来植物、観賞植物などのない、バランスのとれた里山の環境を維持することに力を入れています。

庭園内を散策する

チケット料金所の右側にある植物園の大きな地図には、現在咲いている季節の花が（日本語で）表示されています。また、地図に貼られている写真は、どのような鳥、蝶、その他の昆虫に遭遇できるかがわかるようになっています。雪国植物園をすべて散策するには最大 5 時間かかる場合があるため、季節ごとの地図を確認し、予定の時間内に回れる散策ルートを前もって計画しておくことをお薦めします。

四季を通じた在来種の楽園

雪国植物園では、春から秋にかけて、複数の在来植物が咲き誇ります。春は雪割草（*Hepatica nobilis* var. *japonica*）、カタクリ、ヤマザクラ、カキツバタ、夏はエゾアジサイ、キキョウ、ネムノキ、数種類のユリなど、秋にはアカバナ、ヒガンバナ、ムラサキシキブ、リンドウ、ツワブキなどが咲きます。また、80 種近くの鳥、45 種の蝶、40 種のトンボ、森林動物であるウサギやタヌキなど、年間を通じて多くの鳥や昆虫やその他の動物を見ることができます。

長岡のシンボル「雪割草」

雪国植物園が保護に特に力を入れている植物の一つは雪割草です。英語でヘパティカ、バーズアイプリムローズとも呼ばれます。雪が解けると真っ先に現れる花の一種で、春の訪れの象徴とみなされます。ピンク、白、青紫色で地面に近い低めの位置で咲き、季節の移り変わりを色鮮やかに告げる花として里山の斜面を覆い尽くします。雪割草は生息地の減少と乱獲により希少になってしまいましたが、長岡市では雪国植物園や妙法寺、国営越後丘陵公園などで大切に育てられています。

コミュニティのための場所

雪国植物園は、自然保護活動に加えてコミュニティの場として 1984 年に設立されたました。スタッフは主にボランティアで、その中には若い世代に知識を伝えることを目指す多くの高齢者も含まれています。植物園の施設では子供に魅力があるテーマの特別公開講座が開催されます。6 月中旬から 7

月上旬の特別夜間開園にはホタルが見られます。春と秋には「長岡野鳥の会」の後援のもと探鳥会が開催されます。